

心臓血管外科

● スタッフ（平成30年10月1日現在）

診療科長 荻野 均
 医局長 神谷 健太郎
 病棟医長 岩橋 徹
 外来医長 西部 俊哉

医師数 常勤 13名
 非常勤 9名

● 診療科の特徴

当科では、心臓疾患（虚血性心疾患、大動脈弁・僧帽弁狭窄閉鎖不全、慢性血栓塞栓性肺高血圧（CTEPH）、先天性等）、大動脈疾患（急性・慢性大動脈解離、胸部・腹部大動脈瘤等）、末梢血管疾患（閉塞性動脈硬化症、バージャー病、下肢静脈瘤等）と幅広い心臓血管外科領域を網羅し、患者さんに最適と思われる治療を選択し治療しています。

また、複合緊急疾患を有する高齢者や重症患者の集学的医療のため、循環器内科、麻酔科、集中治療部など他科との連携し、密接な協力体制のもとに、最善の治療を提供するべく日夜診療を行っています。

＜診療内容＞

- ①心臓手術；冠動脈バイパス術（人工心肺を用いない OPCAB 含む）や弁置換術などの標準的な手術はもちろん、Maze 手術、左心室形成術、大動脈弁・僧房弁形成術などの自己弁温存手術（David 手術）などの複合手術も行っています。
- ②大血管手術；胸部・胸腹部・腹部大動脈瘤や急性・慢性大動脈解離に対して、人工血管置換術を行っています。
- ③肺動脈血栓内膜摘除術（PEA）；慢性血栓塞栓性肺高血圧症（CTEPH）に対する、国内で数少ない手術可能な医療機関です。
- ④末梢血管手術；閉塞性動脈硬化疾患に対して下肢バイパス術（人工血管や自家静脈グラフト）や血栓内膜摘除術を行っています。
- ⑤低侵襲手術；体に負担の少ない低侵襲手術を目指し、上記の通常手術に加えて、ステントグラフト内挿術（TEVAR・EVAR）、血管内治療（PTA）、小切開開心術（MICS、OPCAB）を積極的に行っています。
- ⑥下肢静脈瘤手術；ラジオ波焼灼術（RFA）を行っています。
- ⑦緊急性の高い急性大動脈解離、大動脈瘤破裂、急性心筋梗塞、急性動脈閉塞症に対して、CCU、ICU、救命救急センターと協力して緊急手術に対応しています。

● 診療体制と実績

入院患者総数：506（平成30年（2018）4月～平成31年3月）
 手術件数：454（平成30年（2018）1月～12月）
 自己弁温存手術（David 手術）；大動脈基部の病気に対して、自分の大動脈弁を温存つまり大動脈弁を取り替えない

手術です。一般的には David 手術と呼ばれ、特殊な技術が必要です。積極的な導入により特に若年の患者様にとっては、ワーファリンなどの抗凝固薬から解放されとても有意義と考えます。

肺動脈血栓内膜摘除術（PEA）；慢性血栓塞栓性肺高血圧症（CTEPH）に対する手術です。肺動脈内の肥厚した血栓や内膜を摘除して、肺動脈の血流を改善させ、息切れや呼吸苦を改善します。国内では数少ない実施施設であり、国立循環器病センターに匹敵する症例数を誇ります。また、循環器内科とも協力しカテーテル治療を併用したハイブリット治療も行なっています。

ステントグラフト治療；大動脈瘤に対して、体への負担の少ない低侵襲治療を目指し、ステントグラフト内挿術を積極的に行なっています。ステントグラフト治療数は都内でも有数の症例数を誇ります。標準手術である人工血管置換術も行っています。

令和元年（2019）に新病院になり、手術室内に血管造影設備を併設したハイブリット手術も稼働を開始し、これまで施行していたステントグラフト等の低侵襲手術もより容易になりました。また旧病院の施設ではできなかった経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）治療も今後開始予定です。標準手術である人工血管置換術などの開胸開腹手術からステントグラフトや TAVI などの低侵襲手術まで、全ての治療を網羅し、より一層患者様に最適な治療を選択していきます。

領域	手術件数
心臓	102
血管	352
合計	454

領域	術式	件数	内訳
心臓		102	
	冠動脈バイパス		29
	弁置換・弁形成		43
	肺動脈血栓内膜摘除（PEA）		15
	その他		15

領域	術式	件数	内訳
血管		352	
胸部	人工血管置換		47
	ステントグラフト（TEVAR）		34
腹部	人工血管置換		18
	ステントグラフト（EVAR）		68
末梢	血行再建		32
	血管内治療（PTA）		61
	その他		14
静脈	静脈瘤		25
	その他		1
HD	ブラットアクセス		52